R7 楡木小学校　学校通信
No.８

なりたい自分になる！

In 楡木サラダボウル
令和７年５月２３日
文責　余宮

いよいよ明日は運動会…と思っていたのですが雨。でも、気を取り直して明後日を心待ちにしています。

がんばりどころ

早朝、応援団の練習が熱を帯びる頃、1 年生教室では運動会練習に不安をもつお子さんに対して優しい声をかける 6 年生の姿が。6 年生の教室に目を向けると、「よさこい（表現活動）」の自主トレに汗を流す子どもたちがいる中で、健康観察を各学級に配る大事な役目を丁寧に全うする保健委員さんの姿も。運動会に向けた取り組みは、本当に色とりどりです。

ある調査によると、学校で行われる一番苦手な行事が「運動会」。にもかかわらず、一番楽しみな行事も「運動会」という結果が。大変興味深い。その理由の一つが、多様にある「運動会」のがんばりどころがどれだけ見えるか、という運動会の見方にあると思うのです。

運動会では、徒競走や団体競技など、当日の目に見える活動がクローズアップされがちです。しかし、これらの競技-特に徒競走を苦手だと思うお子さんも少なからずいるのではないでしょうか。もちろん例にもれず、私も苦手でした。だって、練習してもしてもなかなか俊足にはなれないし、目に見えて成果が生まれづらい。短距離走などのパワー系競技は、速筋繊維の強化が不可欠で、なかなか短期間（2 週間程度）では育ちにくい。だから、どうすれば速く走れるかを調べると、「体幹が大切」とか「バランス感覚を鍛える」などのアドバイスがあるんだけど、これも短期間では難しそう。もともと、苦手なんだから気乗りもしない…ということで今年もなんとなくやり過ごそうかな～。と、何ともネガティブなことを考えていたことを思い出します。そんな私にも、転機が訪れたのが、運動会の係活動でした。始まりの言葉を発表することになり、がんばったなあ。「運動会」が彩を帯びた瞬間でした。

そう、クローズアップさせると見える部分がとても少なくなるんだなあ、と実感しました。だから、時にはルーズに見ることも大切。例えば、左のイラスト。優勝者がゴールテープを切る瞬間だけど、これがクローズアップされていますね。でも、これをちょっとルーズにしてみると…テープを握っている人がいます。このテープ係、実はとっても難しいのです。お互いに息を合わせて片方がゴール瞬間にするするとテープが動くように手を離さなきゃならないし、他方は後続が引っかからないように素早く巻き取らなきゃならない。もっと引いてみると、その周りには順位係や放送係、応援団が応援を司り、保健係はけが人の手当てを補助しているかもしれない。

係活動以外にも、緊張しているお友達に優しい声をかけてくれるお子さんや、毎日お家の方がやってくれる洗濯などに感謝をしているお子さんなど、（目に見える見えないにかかわらず）クローズアップしていては見えないこと・モノがたくさんあることがわかります。

開会式でいい姿勢をしているお子さんや、係決めの時に第一希望をお友達に譲ってくれたお子さんなど、本当にいろんな場面で輝く子どもたちがいる。そんなたくさんの「がんばりどころ」が、運動会の醍醐味であり、見どころなんだろうと、私は思います。

運動会を楽しむコツは、自分らしいがんばりどころを見つけることかもしれませんね。もちろん、がんばったにもかかわらずうまくいかなかったことや失敗も含めて、「最後まであきらめない運動会」を実践してくれるであろう楡木っ子の奮闘を期待したいものです。